



ほかの班が探し回中、取った絵札をメンバーにみせる児童

防災への意識を高める

ジャンボかるた大会

ジャンボかるた大会が3月10日、寄木小で開催されました。同校では、3月11日を「いのちときずなの日」と名付け、震災から学ぶ日としています。今年は、地域の良さを見つめ直し、防災について考える意識を高めるため、ふるさと防災かるたづくりに取り組んできました。読まれた句を全員で復唱してから、2人組8チームでA3判の絵札を取り合います。「どどどど やねの下は きけんだよ」などの地元ならではの句もあり、楽しみながら防災について学びました。

笑い声ひびく冬の日

第5回七時雨温泉雪まつり

第5回七時雨温泉雪まつり(合同会社七時雨主催)が2月26日、西根老人憩の家で開催されました。午前は、寺田地区の老人クラブ・サロンを対象とした室内ミニ運動会が行われ、約50人が参加。「へら玉リレー」や「トッパ・ジョスナー」などバラエティーに富んだゲームを楽しみました。また、午後の演芸会では、八幡平市吹奏楽団の演奏や泉まゆ香さんによる歌謡ショーが行われ、参加者は皆、終始笑顔で楽しい時間を過ごしました。



「とっぴょすなあ〜」と協力し合う参加者たち

歌と踊りでありがとう

大更・大更第二学童保育クラブ世代間交流会

大更・大更第二学童保育クラブ世代間交流会が3月23日、同クラブで行われました。交流会は、同クラブ児童の家族や、1年間活動を見守り、協力をした地域の人々へ感謝の気持ちを表すために開催。当日は、51人の児童たちが来場者前で歌と踊りを披露した後、参加者全員でしね音頭を踊り、交流を深めました。小林由奈さん(大更小4年)は「みんなで一緒に感謝の気持ちを伝えられた。4月からも元気に活動します」と、会の成功を喜びました。



元気いっぱい「ソーラン節」を披露する児童たち

地熱利用で地域活性化

沸騰地熱塾in八幡平市

沸騰地熱塾in八幡平市が3月5日、いこいの村岩手で開催されました。同イベントは、企業組合八幡平地熱活用プロジェクトが主催し、市民など約50人が参加しました。同組合の船橋慶延代表理事は、地熱と馬を利用したマッシュルーム栽培や堆肥生産の取り組みなどを紹介。他にも4事業者が「八幡平市がもっと熱くなるために」をテーマに、福祉・農業・建設・観光の各分野が連携した地域活性化策を発表しました。



参加者に好評だったマッシュルームを中心とした試食会

悩み抱えず人権相談へ

市人権擁護委員による寸劇「ごはんだよ〜」

市人権擁護委員による寸劇「ごはんだよ〜」が3月12日、第19回寺田コミセンまつりの会場内で披露されました。同寸劇は、人権擁護委員の高橋さよさんが昨年創作したもの。老夫婦が、息子とのささいな言葉のやりとりで傷ついたり、近隣住民がそれぞれの家庭内での悩みを語り合ったりと、人権の問題を扱った内容。「悩みを抱え込まずに人権擁護委員へ相談しよう」と来場者に訴えました。



近隣住民の集まりで、それぞれの苦労話しを語る場面

体験を通して防災学ぶ

八幡平消防署防災フェスタ

八幡平消防署防災フェスタが3月5日、同署敷地内で開催され、家族連れなどでにぎわいました。防災フェスタでは、防火に関するアニメの放映や応急手当講習会を実施。体験コーナーでは、煙体験や防火衣の試着、初期消火・放水体験などが行われ、訪れた子どもたちは、各展示などを見学・体験しながら防災を学びました。放水体験に参加した斎藤瑛君(安代小2年)は「手が外れそうで恐かったけど、放水できてうれしかった」と笑顔で話しました。



防火衣をまとい火元に向かって放水する斎藤瑛君

すなっぶギャラリー



卒園するりんご組の9人で最後の合唱をしました(3月11日、あしる保育園)



ながのスキー国体距離成年女子A5*。クラシカルで優勝した土屋正恵選手が表敬訪問(3月22日、市役所)



在校生、先生、父母に6年間の思い出と感謝の言葉を述べる卒業生(3月17日、田頭小学校卒業式)



市消防団第2分団に消防ポンプ車が引き渡されました(3月3日、市役所庁舎前)



入隊予定者の4人を家族や関係者で激励しました(3月12日、市自衛隊入隊(校)予定者激励会)